

獣害対策を進め 農地を守りましょう

ツキノワグマ
前足は横長で爪跡も残りやすい
後足は縦長

イノシシ
半月状のひづめと副蹄がある
副蹄は足跡に残らない場合もある

カモシカ・ニホンジカ
副蹄はほとんど残らない

ニホンザル
人の手形に近い
後足もほぼ同じ形で大きい

タヌキ
4本の指跡が残る

ネコ
丸い足跡が直線上に並ぶ

イヌ・キツネ
縦長な足跡になる。キツネは、左右が直線上に並びやすい

ウサギ
後足は左右が揃っている

ネズミ
足跡の間にしっぽの跡が残ることがある

ハクビシン
5本の指跡が残る

動物12種類の足跡を判別する資料(福島県農業総合センター浜地域農業再生研究センター作成)
※県のHPで見ることができます
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/438391.pdf>



サル・イノシシ以外の野生動物が被害をもたらす場合もあります。村内でも近年は、シカやカモシカが増えています。左の図は、県農業総合センター浜地域農業再生研究センターが作成した、足跡で動物の種類を判別する資料です。農地や庭に残された足跡から何の動物かを特定し、柵の設置方法などを検討して、対策の向上に役立てることが出来ます。ご利用ください。



防護柵を設置して農作物を守りましょう

飯館村営農再開支援事業推進協議会では、営農を再開する農地へ、イノシシやサル等獣害防止柵の貸与を行っています。ここでは設置後のメンテナンスについてお伝えします。

電気柵の管理のポイント

- **除草はこまめに**
雑草が柵線に触れると漏電や電圧低下の原因になります。除草が難しい場所は、通電性のある電気柵専用の除草シートを活用しましょう。
- **柵線のたるみや断線に注意**
たるみや断線の隙間から動物が入りやすくなる他、線が地面や水たまりに触れると漏電の原因になります。
- **電圧を測りましょう**
電圧は常に4,000V以上で維持してください。電圧計を持ち歩き確認しましょう。電圧が低い場合は漏電や断線の点検をしましょう。
- **作物のはみ出しに注意!**
外から食害され、柵を突破されやすくなります。柵と作物を離して、動物に諦めさせましょう。

ワイヤーメッシュ柵の管理のポイント

- **こまめに見回りましょう**
ワイヤーメッシュ柵を突破して入ろうとイノシシが隙間を探しに来ているかも知れません。また、攻撃を繰り返して少しずつほころびを広げているかも知れません。できるだけこまめに見回り、変化に気づけるようにしましょう。
- **周囲の草刈りをしましょう**
柵の内側はもちろん外側も草刈りをしましょう。点検しやすくなりますし、隠れる場所がないことでイノシシが柵に接近しづらくなります。

設置後のメンテナンスが大切です

防護柵の広域設置に取り組んでいる地区もあります

協議会が貸与するワイヤーメッシュ柵を、イノシシが生息する山際に設置し、集落全体を広域柵で守る取り組みを、上飯樋地区、佐須地区が進めています。



イノシシよけのワイヤーメッシュ柵を張ります

上飯樋行政区 鈴木秀範 区長
上飯樋地区の大規模設置は、地区の農地を集約して活用する「13区営農組合」(細川強代表)が中心となって始まりました。「広い農地を守るには山からの侵入を防ぐ方がいい」と、同組合が先行して柵をかけてくれました。
現在は、集落で協力しながら設置距離を延長しています。残っている部分も、基盤整備やほ場整備の終わった所から随時やっていく予定です。囲った所は被害が減っていると感じます。今年イノシシ自体も減っているようですが、自宅の周りにはイノシシが現れなくなりました。

獣害防護柵の貸与 令和3年度の申し込みは2月14日まで

飯館村営農再開支援事業推進協議会が、電気柵・ワイヤーメッシュ柵の無償貸与を行っています。年度内に設置する予定の方は、2月14日までに、農政第二係に申し込んでください。(今年度の予算に限りがあるためご希望に添えない場合もあります)※設置前と設置後の写真を添付し柵設置報告書を提出していただきます。

令和4年度の申し込みについては、準備ができ次第、広報お知らせ版でお知らせします。

問 産業振興課農政第二係 ☎0244-42-1625

行政と住民の協力が対策強化のカギ

福島県避難地域鳥獣対策支援員 若月将平 さん

避難地域の鳥獣対策を支援する県の事業で、昨年度から飯館村を担当しています。毎週のサルの調査、ワナに取り付けたセンサーカメラの映像分析の他、全般的な対策支援も行っています。

野生鳥獣による農業被害は全国的な課題で、各地で対策が進められています。

飯館村は、問題意識を持ち、継続して対策を強化しています。その対策をさらに進めるためには、役場、実施隊、住民の皆さんの連携、協力が欠かせません。また、そこに専門にやっている我々のような者も加わって、効率的で有効な捕獲や対策につなげていければと思います。

